

おとさだ 乙貞

第 196 号 通 巻 34 巻 第 3 号
平成 26 (2014) 年 10 月 1 日 発行

守 山 市 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
TEL/FAX 077-585-4397

〒524-0212
守 山 市 服 部 町 2 2 5 0 番 地

9 月に入り、陽射しも随分と弱まり、朝夕もまた、たいへん過ごしやすくなりました。気がつけば、こうべを垂れた稲穂の収穫が始まるなど、色々なところで本格的な秋の訪れを目にすることができます。

さて、夏から秋へ移ろう時も着々と市内遺跡の発掘調査を実施しています。この 2 ヶ月に終了した遺跡の発掘調査成果、そして埋蔵文化財センターの活動を紹介していきます。

発掘調査だより

1 長塚遺跡の発掘調査

小島町字木戸において、宅地造成工事に伴い 7 月 22 日～同 7 月 29 日の期間で発掘調査を実施しました。調査は約 250 m²を対象に行いました。調査の結果、中世とみられる溝、柱穴、土坑および旧河道を検出しました。溝等から出土した土師器から鎌倉時代の遺構と考えられます。調査区中央では、南北方向に伸びる旧河道が検出されました。溝等が旧河道に切られていて、中世以降の川跡と考えられます。

(伴野)



▲ 長塚遺跡遺構検出状況

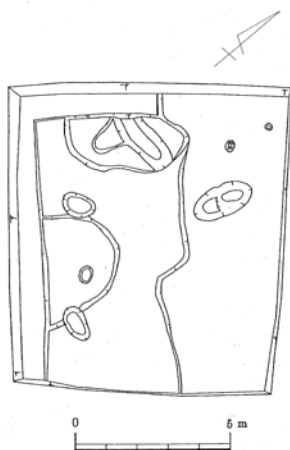
2 吉身西遺跡の発掘調査

守山五丁目字下岩賀地先において、宅地造成工事に伴い、8 月 4 日から 8 月 15 日の期間で発掘調査を実施しました。

調査は、試掘調査で遺構が確認された約 100 m²を対象に行いました。

調査の結果、弥生時代から古墳時代前期とみられる土坑や柱穴などを検出しました。周辺に広がる当該期の集落遺跡の一部と考えられます。

(小島)



▲ 吉身西遺跡 遺構検出平面図 (左) 検出状況写真 (右)

3 古高城遺跡の第23次調査

古高町において、宅地造成工事に伴い、7月22日から8月8日の期間で発掘調査を実施しました。試掘調査で遺構が確認された約180㎡を調査した結果、平安時代後期から鎌倉時代とみられる土坑や溝、柱穴などを検出しました。

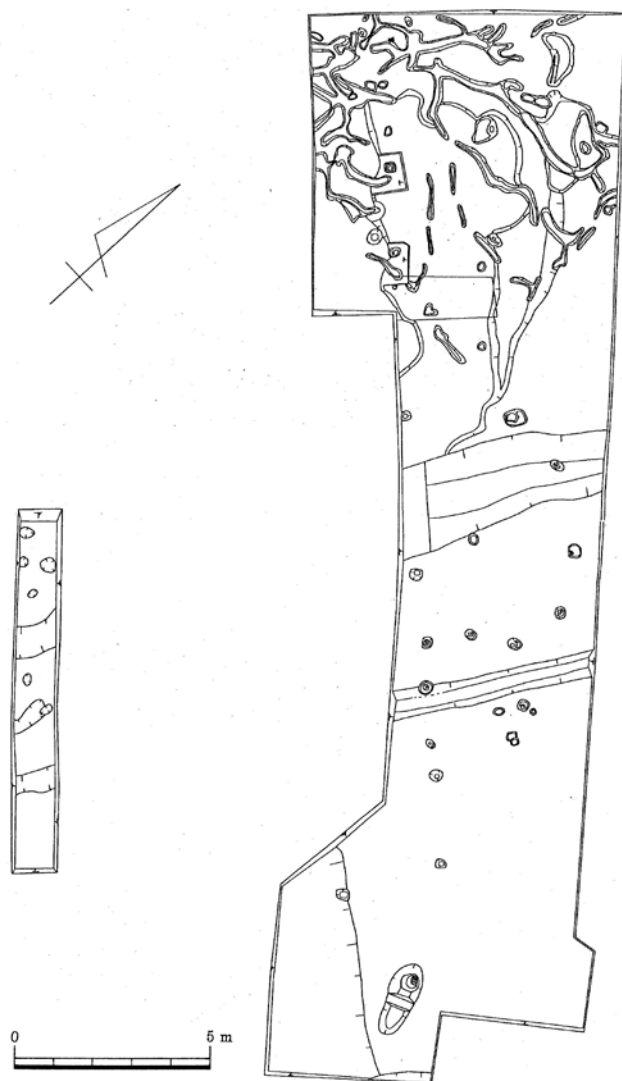
これまでの周辺地での調査で、同時期の遺構が散在的に確認されています。今回検出した遺構も、一帯に広がる古代末から中世にかけての集落遺跡の一部と考えられます。(小島)

4 古高城遺跡の24次調査

焰魔堂町字新力において、店舗建築工事に先立ち、7月30日～同8月27日の期間で発掘調査を実施しました。面積は約450㎡を対象に行われ、調査の結果、溝、掘立柱建物、方墳、竪穴住居等が検出されました。

調査区の北東中央隅において、竪穴住居の一部を検出しました。出土土器から古墳時代前期の住居とみられます。床面は固く踏みしめられていたほか、周壁溝が一部確認されました。また、竪穴住居を切って、古墳時代後期の方墳が造営されていました。

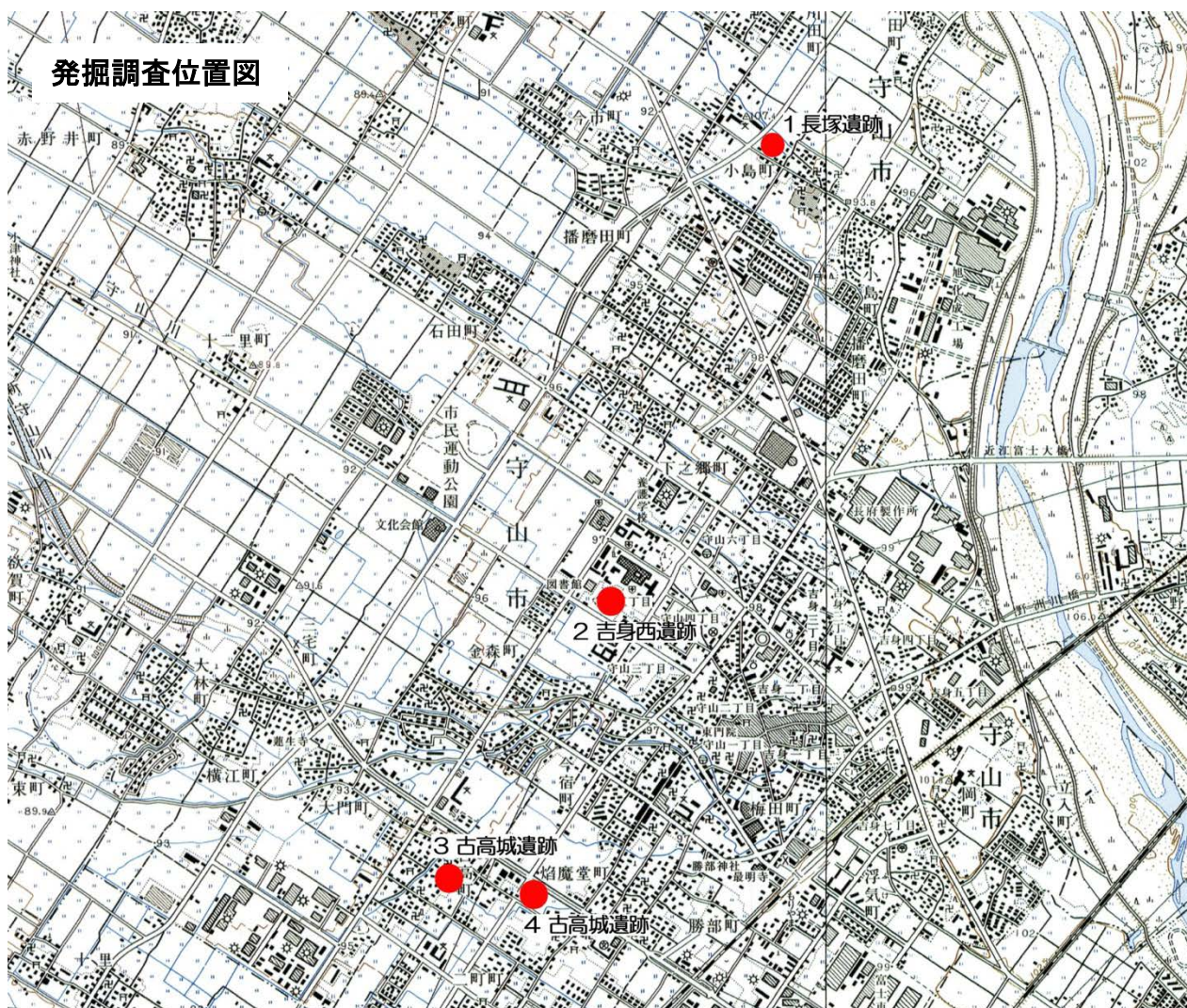
方墳は一辺11m程と推測され、周濠からは須恵器の杯身等が出土しました。古墳の西側では掘立柱建物が3棟見つかりました。2間×2間の総柱建物は、出土土器から古墳時代前期と推測され、高床倉庫とみられます。そのほかの建物は、出土土器からみて平安時代後期の建物と推測されます。その他、柱穴や溝が多数検出されていますが、古代末から中世初頭の遺構と考えられます。(伴野)



▲ 古高城遺跡検出遺構平面図



▲ 古高城遺跡 遺構検出状況写真



トピックス

■歴史入門講座第3・4 講開講！

前号でも紙面に掲載しました歴史入門講座は、第3講として、松浦俊和さん（大津市埋蔵文化財管理センター所長）の「古代史上最大の内乱・壬申の乱―大海人皇子と大友皇子―」と題した講義が8月16日（土）に、また、第4講は、岩橋隆浩さん（公益財団法人滋賀県文化財、保護協会）による「城から見た“天下人”―信長・秀吉・家康と近江―」を演題とした講義が9月20日（土）にありました。いずれも、滋賀県・近江に深い関わりのある人物についての講義に受講者は真剣に耳を傾けていました。



▲ 第4講（9/20）講座風景

【今後の講座日程・演題】※受講には、事前の申し込みが必要です

第5講 10/18（土）

「彦根藩井伊家三十五万石を支えた“ひと”―彦根城重臣屋敷の発掘調査から探る―」

第6講 12/20（土）

「東北震災復興の今 ―東日本大震災復興支援発掘調査に携わった“ひと”に聞く―」

埋蔵文化財センター秋季特別展開催のお知らせ

☆守山市埋蔵文化財センターでは、下記のとおり秋季特別展を開催いたします！

- 1 開催テーマ 『古墳時代の守山 ー服部遺跡・下之郷遺跡・伊勢遺跡のその後ー』
- 2 開催趣旨 弥生時代の守山は、稲作文化の受容を契機に急速な発展を遂げたことを服部遺跡や下之郷遺跡、伊勢遺跡は物語っています。
今回の特別展では、古墳時代の守山の動態を探っていきます。
- 3 開催期間 11月1日（土）から11月24日（月・祝）まで（期間中無休）
- 4 開館時間 午前9時から午後4時まで（入館時間）
- 5 主な展示品 服部遺跡他ー土器・木製品・埴輪／八ノ坪遺跡ー衣笠立飾りとその復元品／下長遺跡ー儀杖、銅鏡などの威儀具、木製品／川田遺跡・松塚遺跡・欲賀南遺跡他ー各種埴輪／吉身北・南遺跡、堂ノ北原遺跡ー滑石製玉類など
- 6 関連行事 講演会 (1)日時 11月24日（月・祝）午後2時から
(2)演題 「古墳時代の威儀具の残影」
(3)講師 一瀬和夫さん（京都橘大学教授）
(4)場所 埋蔵文化財センター2階会議室
- 7 アクセス JR守山駅より近江バス服部線「市立埋蔵文化財センター」行き、またはビッグレイクライン「野洲川歴史公園サッカー場」行き乗車「市立埋蔵文化財センター」下車。
- 8 その他 特別展開催準備と閉会後の展示資料等整理のため、10月15日（水）から30日（金）までと、11月25日（火）から12月1日（月）までの期間を休館します。

埋蔵文化財センター文化財講演会

「飛騨高山を築いた ”ひと” ー金森長近 もうひとつの実像を求めてー」

講演会開催と受講者募集のお知らせ

初代飛騨高山藩主である金森長近は、幼少青年期を金森で過ごした戦国武将です。群雄割拠の時代、織田信長に仕え、豊臣秀吉の家臣となり、そして徳川家康の天下統一後には、飛騨高山藩主となりました。今回の文化財講座では、この金森長近の人物像に迫ります。

- 1 開催日時 11月15日（土）午後2時から
- 2 開催場所 埋蔵文化財センター会議室（定員 70 名）
- 3 講師 田中 彰氏（元高山市郷土館長・現高山市史編纂委員）
- 4 受講方法 10月16日（木）からの電話・FAX でお申し込みください。
- 5 申し込み 守山市立埋蔵文化財センター（守山市服部町 2250 番地）
TEL・FAX 585-4397（火曜日休館・受付は 9:00～17:00）

今号の乙貞より編集を担当しています濱田です。この9月よりセンター調査員として勤めることになりました。九州で約 10 年間、発掘調査を中心に埋蔵文化財に携わってきましたが、日本史的にも舞台となることも多かった南近江という地域での勤務を希望し、やって参りました。来て早々、服部遺跡や下之郷遺跡、伊勢遺跡など、弥生時代の拠点集落が同一市内に3カ所もあること、さらにはその出土品である木製の琴や、装飾品の衣笠立ち飾り等、素晴らしい文化財の多さに驚嘆しています。

今後これ等の発掘調査の広報を担当することに喜びを感じており、できるだけ多くの情報をお届けできるように努めていきますので、よろしくお願いいたします。（濱田）

